



パソコンを使っでの説明を受ける参加議員たち。真剣な質問が出されました。



メニューを相談するボランティアのみなさんたち。楽しそうでした。



こども食堂の前で。後ろは、食材にする野菜が育っています。

孤食



「孤食」（こしょく）って最近、耳にするようになった、という方も多いのではないだろうか。昔は「家族みんなで食事」が当たり前でしたが、今はそうではなくなっています。「子どもの貧困」との関係も大きいことから、全国で300を越える「こども食堂」ができています。今回は、福祉健康常任委員会の所管事務調査で、吉川市にある民間施設を視察しました。

◆場所は、吉川団地にある訪問介護施設の一角です。ボランティアは週3回、1日30食分の食事を作っています。（無料）その日手に入った食材がおいしい料理に生まれ変わります。

この日は、ナスとオクラの煮びたし、春巻き半分、トマト、杏仁豆腐、味噌汁、もろキユーでした。メニューは、その日集まった食材で決まるとのこと。子どもたちも早くから集まってお手伝いをしていました。「貧困対策」ではなく、地域のこども（大人も可）が自然に、気軽に来て、食事ができれば、というコンセプトだそうです。

吉川市にある「こども食堂」を行政視察しました（民間施設）

学校給食費、「保護者負担分値上げ」の答申、出される

平成24年度以降、食材価格の値上がりや消費税が8%に増税されたことから、これまでの給食費での対応が困難とし、3月17日付で、給食審議会に給食費改定の諮問がされていました。

給食審議会は7月28日、現行の小学校給食費3880円を270円値上げし4150円に、中学校給食費4600円を360円値上げし4960円にする答申をしました。

審議会では、平成27年度、28年度の実績値、値上げした自治体の平均値とともに、物価上昇率を年平均2.3%×3年分を上乗せした金額での試算が示されました。

審議会の中で、子どもの貧困家庭の広がりや心配し、就学援助手当など丁寧に進めてほしいとの意見も出されました。子どもを取りまく環境は、貧困化が進み、久喜市の小学校では、平成26年度では、9.7%、中学校では12.5%の子どもが就学援助を受けています。しかし、値上げすべきではないとの意見はありませんでした。

久喜市ではこれまで赤字が出ていたときには一般会計で支えて来ました。子育て支援に力を入れるのであれば、値上げしないような施策が求められます。日本共産党久喜市議団では、これまで給食費の無料化や、第二子の子は半額に、第三子は無料にしている自治体の事例を取り上げ、実施を求めて来ました。



たのしい給食の時間です。配食の風景（記事とは関係ありません）

	年間回数 (11カ月)	現在の 月額 (円)	答申額	値上げ額	年間増額
小学校	188回	3,880	4,150	270	2,970
中学校	185回	4,600	4,960	360	3,960

衛生組合 議会報告

市のごみ最終処分場 を視察しました！

久喜宮代衛生組合議会では、7月20・21日に久喜市の焼却ゴミの焼却灰・ばいじんの最終処分場である新草津ウエイストパーク（群馬県）を視察してきました。

（株）ウイズウエストジャパンと久喜市は、平成22年で埋め立て終了になった前草津ウエイストパークからを含め、約30年の取引をしています。

現在地では、平成22年2月から平成32年3月までのあいだで利用契約を



処分場の全景



埋め立て場を横から見る

結び、現在85万立方メートルの埋立容量で、全体の61・2%まで埋まっています。

埋立地底面・側面は6層仕様の遮水シートを張り、底には浸出液集排水管を配置し、出される汚水は処理施設で安全に放流できる処理水にまで凝集沈殿、ろ過、活性炭素吸着、消毒し、放流して、残りの汚泥は埋立地へ処分しています。

埋立が終了した旧草津ウエイストパークはウイズファーム草津として水耕栽培野菜（フリルレタス等）を栽培し出荷しています。地元採用もあり、安心安全な野菜作りを進めています。また、地元自治体へ寄付したグラウンドも整備されました。広大な敷地に圧倒されましたが、久喜市の最終ゴミがここに埋められるということに、大きな責任を考えさせられました。

渡辺まさよ

議会定数削減について

議員が少なくなると、地域の声や、民意が反映しにくくなります

6月議会で定数削減の陳情を受け、議会運営委員会で今年度中に、削減を含めて結論を出す方向が示されています。

久喜市議会は、2013年に定数を34名から30名に削減する条例改定をしました。現数は27名で3名の欠員です。（以前の自治法では人口などから34名と示されていた）

私たちはこれ以上の減数は、議会の機能を落とし、地域の声や、少数意見も反映しにくくなるなどのデメリットからも、削減には反対の立場です。

地方自治法では、地方政治は「住民の福祉の増進を図ることを目的」としています。議会は、市行政が出す予算の審査や、事業方針・事業計画について、チェックし、それが市民の利益に合致するか否かについて審査し、場合によっては、対案を示し、政策提言を行なうなど、二元代表制のもとで果たすべき役割があります。この法目的に照らしてふさわしい議員定数（必要な人数）は、いかにあるべきかを検討すべきです。

合併する直前は、1市3町の議会で、合計60名の議員がいました。そこから30名への削減をしたので、「議会のちから」は半減していることになります。

済生会栗橋病院の「あいかた 検討委員会」開催される！

毎月一回開催で
年度末まで検討へ！

加須市への病院移転は、白紙撤回すべきとの声が高まる中、7月1日、済生会栗橋病院自ら立ち上げた「済生会栗橋病院あり方検討委員会」の第一回目の会議が、8月9日19時から栗橋病院内で開催されました。

委員は、済生会、久喜市、加須市、医師会、県社会福祉協議会、10名で構成されています。委員長には、中立的立場の方が望ましいとの意見も出されましたが、互選により、埼玉県済生会常務理事の鈴木享氏が、副委員長には、済生会栗橋病院院長の遠藤康弘氏が選出されました。当日は、済生会栗橋病院の経過と現状報告が資料として（75頁）出され説明されました。遠藤院長からは「医師不足が大きな課題で、これまで75名の医師確保

を目指してきたができなかった」との発言もありました。

委員会は、毎月1回開催を基本にして平成29年3月31日までが委員の任期。

加須市の委員からは「もっと早く結論を出すことはできないか」との意見が出されました。他の委員からは「年度末まで十分に検討を」との声がありました。

「検討内容」は、設置目的とされている、病院の機能、規模、施設整備など基本的な方針を検討します。

また、取りまとめられた「答申」は、済生会埼玉県支部の理事会に「議案」として出され承認され、最終的には中央本部で承認されます。県の理事会は年3回。3、5、11月に開催予定。「あり方」の議事録や開催予定は、今後ホームページにてお知らせするとのことです。

今回は9月26日19時からの予定です。傍聴は10人程度で、多い場合は抽選になります。（18時45分に締め切り）